

Windows対応の農業経営設計システムの開発

1. 試験のねらい

昭和63年に開発された「簡易な経営設計システム」はBasicで作成されており、Windowsの台頭が著しい昨今のパソコン事情に適応しにくくなってきている。そこで新たに「農業経営設計システム」としてWindowsへの対応を図り、認定農業者など企業的な農業経営を目指す農業者が簡易に利活用できるようにする。

2. 試験方法

Windows対応システムの開発にあたり、基本ソフトとしてマイクロソフト社製データベースソフト「Access97」を使用した。システムはBasic版と同等の機能に新機能を追加した。また、印刷物だけでなくパソコン画面でも営農計画が検討できるよう考慮した。

3. 試験結果

- (1) 設定画面(図-1)では希望作目の規模(67作目から複数選択可能)、農業従事日数(農業主:150日以上、農業従:60~150日)、性別、年齢(65歳未満、65歳以上)で分類した労働力構成、経営内で共通に使用する建物・農機具規模の入力を行う。
- (2) それぞれの作目について10a当たりの旬別労働時間のグラフ表示ができ、農繁期、耕種概要が確認できる。
- (3) 総労働時間グラフ(図-2)では、選択した作目の労働時間の合計(棒グラフ)と労働力構成によって変化する労働可能時間(折れ線グラフ)が表示され、年間の労働配分状況が検討できる。また、家族労働だけでなく雇用導入による労働可能時間の変化も検討できる。
- (4) 新機能となる作目別労働時間グラフ(図-3)では、農繁期を構成する作目および耕種概要が確認でき、労働の平準化のための適正な作目規模が検討できる。
- (5) 作目別収益性の表示のほか、経営内で共通して使用する建物規模・農機具規模の選択から減価償却費が計上され、経営全体の収益性がわかる。また、雇用導入後の所得の試算も可能である。
- (6) システムの基本となる各作目のデータは、10a当たりの収益性、旬別労働時間、耕種概要で構成されており、修正することが可能である。また、新規作目データの追加、既存の作目データの削除にも対応している。

4. 成果の要約

昨今のパソコン事情から、Basic版「簡易な経営設計システム」をWindows対応とすることが急務となっている。そこで、データベースソフト「Access97」を使用し、新たに「農業経営設計システム」としてWindowsでの操作を可能とした。

農業経営設計システムでは、従来のBasic版と同様に希望作目の規模、労働力構成等の簡単なデータ入力から、総労働時間のグラフ表示や作目別収益性等の表示・印刷が可能である。また、新たに作目別労働時間グラフおよび雇用導入設定等の機能を追加し、農繁期を構成する作目および耕種概要、雇用導入による労働可能時間、所得の変化等が確認できるようになっている。

(担当者 経営管理研究室 高橋聖恵)

設定画面

氏名 年齢 31歳 性別 男性 女性

〒020-0002 住所 千葉県市川市10-80

TEL 020-095-1241 FAX 020-095-1759

人数	指定労働時間	労働時間
就業未満	7人	37時間/日
就業未満	10人	34.8時間/日
就業以上	5人	33時間/日
就業未満	1人	31.2時間/日
就業以上	87人	44.8時間/日

建物規模	農器具規模
大規模 経営用地300㎡以上 農具経営地400㎡以上	大規模 1599-4099・1795級
中規模 経営用地400~700㎡ 農具経営地200~400㎡	中規模 1099-1595級
小規模 経営用地400㎡未満 農具経営地200㎡未満	小規模 1599-2095級

作業別作業名	作物分類	コクシ	作業回数
1 水稲1毛作1	稲	標準-大規模内作(30-125)	x10a
2 水稲1毛作2	稲	標準-中規模内作(30-9a)	30.0 x10a
3 水稲1毛作3	稲	標準-小規模内作(30未満)	x10a
4 水稲1毛作4	稲	標準-中規模内作(30-9a)	x10a
5 水稲1毛作5	稲	標準-小規模内作(30未満)	x10a
6 水稲雑穀1	稲	標準-7071~200程度	x10e
7 水稲雑穀2	稲	標準-大規模内作(30-125)	x10e
8 水稲雑穀3	稲	標準-中規模内作(30-9a)	x10e

印刷中のおфф (7/16)

図 - 1 設定画面

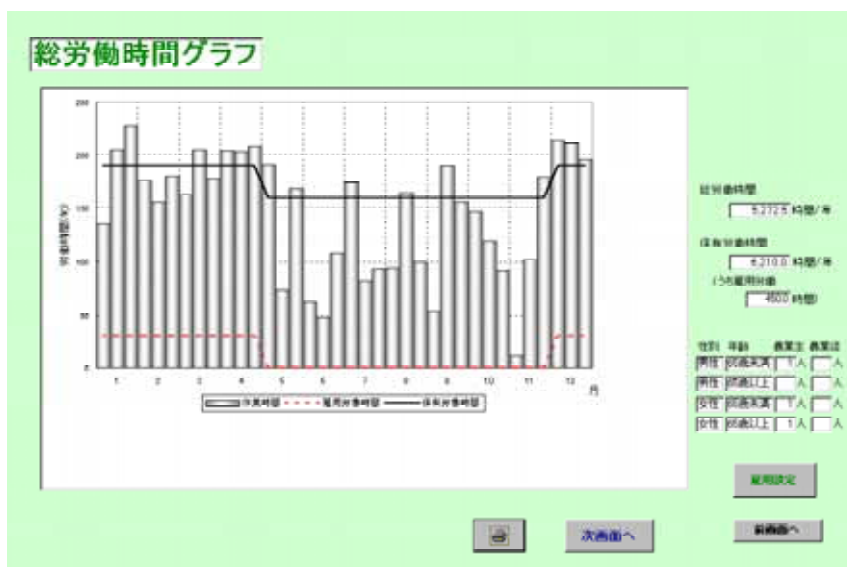


図 - 2 総労働時間グラフ

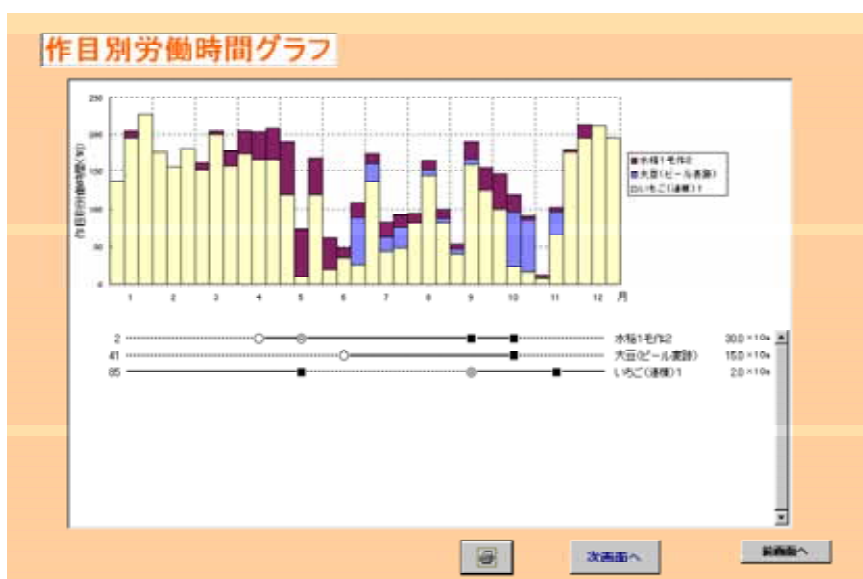


図 - 3 作目別労働時間グラフ